

千葉工業大学技術士会

千葉工業大学技術士会創立一周年を迎えて

千葉工業大学技術士会創立一周年を祝して

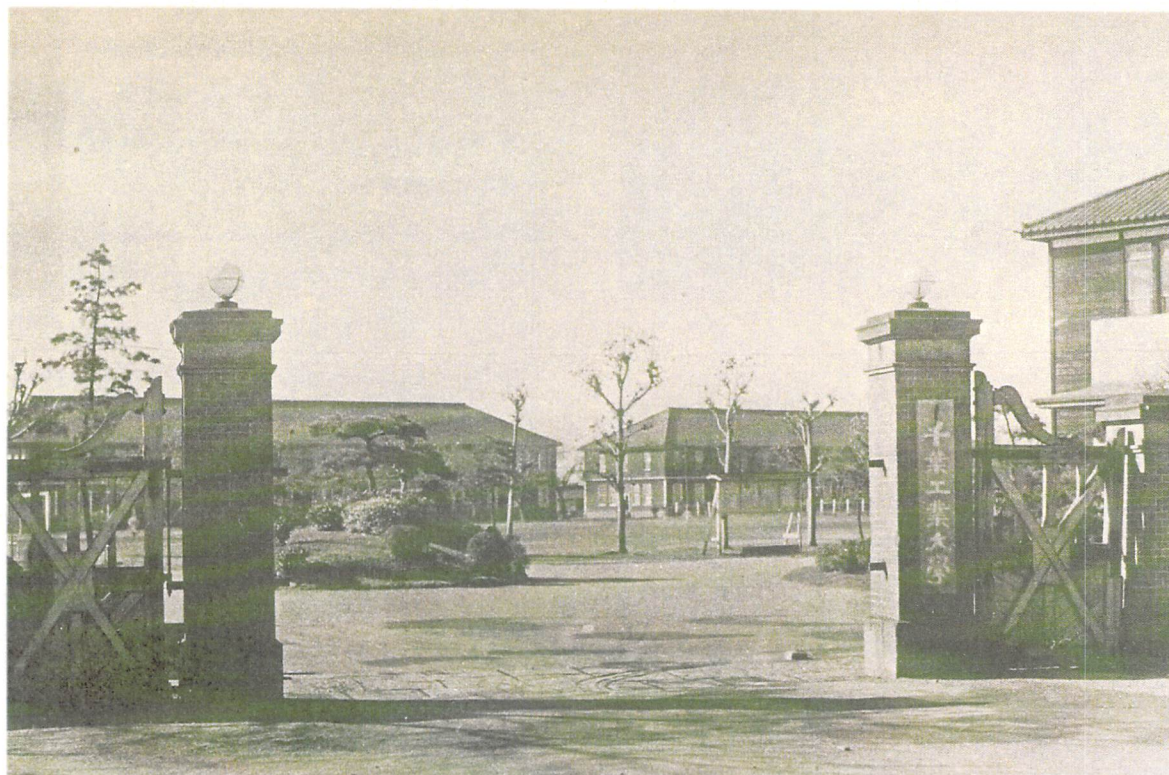
平成17年度活動報告

- ◆ 事務局活動報告
- ◆ 広報委員会報告
- ◆ 受験支援委員会報告

平成18年度事業計画

会員の広場

事務局だより



昭和33年頃の正門（登録有形化財、現存）

千葉工業大学技術士会創立一周年を迎えて



会長 溝辺 哲男

千葉工業大学技術士会は平成18年9月16日をもって創立一周年を迎えることが出来ました。設立にあたり、日本技術士会、千葉工業大学、同窓会等のご支援、ご指導を賜り、約100名の技術士有資格者の皆様が本会の設立の趣旨にご賛同頂き、主要大学7番目の大学技術士会として発足いたしました。

これは、日本技術士会、千葉工業大学としても歴史に残る事柄と思います。この一年間の本会の主な活動を以下に報告をします。

(技術士、技術士補の資格取得の支援)

本会の活動方針の一つに卒業生、学生、大学院生の技術士、技術士補の資格取得の為の支援があります。大学側の要請により学生、大学院生向けに「NEWS CIT」の昨年4月号より一年間(12回)に亘り技術士制度解説シリーズを掲載(今までに9回掲載)中でありました。技術士とは何かを啓蒙し、多くの学生と、大学院生が技術士に挑戦できる環境作りをしてまいりました。

一方、卒業生向けには「校友タイムス」に3回に亘り技術士制度解説シリーズを掲載しております。

その他、日本技術士会の月刊誌「技術士」9月号に、千葉工業大学技術士会を紹介する記事を掲載しました。

(委員会の設置)

組織として、企画・業務委員会、広報委員会、技術士試験支援委員会の3つの委員会を設置し活動してまいりました。

(会員、賛助会員の拡大)

会員数は退会会員を上回る新入会員増で100人のオーダーにのり、賛助会員として3会社の協賛を得ております。

(会の運営費)

主な支出費としては発足にあたり本会の会報等の印刷費、事務用品の購入費、通信費等でした。当初の予算案を若干上回りましたが賛助会員増と同窓会事務局等のご支援により本会を運営できました。

(会員のデータベースの構築)

迅速な対外的要請対応のために、会員のデータベースの構築を始めました。会員の皆様のご協力をお願いするしだいです。

その他多くの活動をしてまいりました。同時に運営費、データベース作成など多くの問題を抱えながらの一年でしたが、会員の皆様と、献身的な役員の方々の活動によりまして意義ある一年であったと思います。

千葉工業大学技術士会は発足以来ようやく一年、これからも本会の発展のために皆様方の温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後に日本技術士会、千葉工業大学の本岡学長はじめ南教授、藤井入試広報部長、芹川同窓会副会長、同窓会事務局等の温かいご支援、ご指導に心から感謝申し上げる次第です。

千葉工業大学技術士会創立一周年を祝して



千葉工業大学 工学部 機械サイエンス学科
教授 南 和一郎

昨年9月16日千葉工業大学技術士会が誕生して早や1年が経過し、創立1周年を迎えることができたこと誠におめでとうございます。これも、会員の皆様の協力と溝邊会長を筆頭に現役員の並々ならぬ母校愛と努力の結果であると敬服しております。2005年に本岡学長が年頭挨拶にあたり本学の今後の教育方針として。本学の建学の精神である「師弟同行」と「自学自律」を、更に教育目標である「科学技術の厳しい変化に対応できるしっかりとした基礎学力を持つ人材の育成」を実現するために、1つめは短期的な施策として、基礎教育を徹底し基礎学力を一定レベルに保つこと、2つめは中長期的な施策として、第三者評価にもつながるJABEEの認定取得に全学あげて取り組み基礎的な技術を高めると共に、実務的な資格である技術士補、技術士に果敢に挑戦する学生の教育環境基盤作りを掲げました。その話を聞かれた溝邊会長が「母校のためにお手伝いを」ということで技術士を取得されている同窓生を集められ千葉工業大学技術士会が誕生したと聞いております。

設立当初から積極的に事業計画に従って活動され、本学の月間広報誌「NEWS CIT」に連載シリーズ【技術士制度解説シリーズ】を掲載され、本学学生へ技術士、技術士補の資格取得に支援をしてくれています。また、同窓会の会報「校友タイムス」にも解説シリーズとして【技術士制度と技術士の役割】を掲載し、すでにかかなりの同窓生から問合せがあり、入会会員もあると聞いています。また、大学の使命は教育・研究と社会貢献ですが、社会貢献として、大学の研究シーズを地域社会に還元することが重要視されるようになり産官学連携の拠点となる千葉工業大学「産官学融合センター」を設立しました。この組織を実行あるものにするためには産学の橋渡しをする人材が必要となります。その支援組織として技術士会が協力・支援していただけることになっております。本学を卒業し在職している者として感謝すると同時に大いなる誇りです。現在、会員数が百数名と聞いていますが、更に会員数が増加し千葉工業大学技術士会が発展することを祈念します。

平成 17 年度活動報告

『事務局活動報告』

事務局長 南澤 守

この一年間、当会の窓口、折衝、事務等々の業務を一人で切り盛りする事務局でしたが、会員、南先生をはじめ大学関係者、同窓会のご支援により、何とか皆様のお力添えにより活動をする事ができました。この場をかりて感謝申し上げます。また、手弁当で事務局を支えて下さった役員・委員の方々に謝意を表したいと思います。

活動内容を振り返り反省点も多々ありますが、会員の皆様からの目を通して、これからの会運営に反映していきたいと思っておりますので、ご意見をお願い致します。

○ 平成 17 年度活動報告書 (自：平成 17 年 9 月 16 日 ~ 至：平成 18 年 3 月 31 日)

実施日	事業 (活動) 内容	実施場所
H17. 9. 16 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・設立総会 出席者 33 名、委任状提出者 34 名 ・学内研究成果見学 32 名 ・懇親交流会 34 名 	千葉工業大学 7 号館、8 号館 及び職員食堂
H17. 9. 26 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・設立総会出席へのお礼 原常務理事、本岡学長、芹川同窓会副会長 出席者/ 溝辺会長、南顧問、南澤理事 	千葉工業大学 常務理事室 学長室
	<ul style="list-style-type: none"> ・設立総会出席へのお礼 日本技術士会 竹下専務理事 出席者/ 溝辺会長、南澤理事 	日本技術士会 6F 会長室
H17. 9. 30 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・役員会開催 (第一回) 出席者/ 溝辺会長、粕谷副会長、南顧問、黒澤理事、 久多羅木理事、南澤理事、町田理事、中島監事 	千葉工業大学 5 号館 7F
H17. 10. 14 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・「千葉工業大学技術士会」の名称使用について 大学法人豊田理事長から、使用許諾について正式に 了解が得られた旨の連絡を受ける。 	千葉工業大学 南顧問より電話
H17. 10. 21 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・「千葉工業大学産官学融合センター」の開所式 出席者/ 溝辺会長、粕谷副会長、南澤理事 	千葉工業大学 5 号館 6F
H17. 11. 25 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・役員会開催 (第二回) 出席者/ 溝辺会長、南顧問、久多羅木理事、南澤理事、 町田理事、中島監事 	千葉工業大学 5 号館 7F

実施日	事業（活動）内容	実施場所
H17. 11. 28(月)	<ul style="list-style-type: none"> 会報発送 日本技術士会（5通） 千葉県技術士会（1通） 柏門技術士会（1通） 	
H17. 12. 9(金)	<ul style="list-style-type: none"> 学生および卒業生への技術士制度の啓蒙について相談 日本技術士会 竹下専務理事、畠山常務理事 出席者/ 溝辺会長、黒澤理事、久多羅木理事、南澤理事 	日本技術士会 7F 会議室
H17. 12. 16(金)	<ul style="list-style-type: none"> 千葉工業大学 技術・情報振興会開催の「産官学連携フォーラム（第2回）」 出席者/ 溝辺会長、久多羅木理事、南澤理事 	千葉工業大学 7号館 4F 7404 講義室
H18. 1. 13(金)	<ul style="list-style-type: none"> 広報・業務委員会（第一回） 出席者/ 溝辺会長、黒澤理事、町田理事、南澤理事、 宮前委員、児島委員 	千葉工業大学 5号館 7F
H18. 1. 17(火)	<ul style="list-style-type: none"> 千葉工業大学へ現況報告と今後の活動について 本岡学長、原常務 出席者/ 溝辺会長 	千葉工業大学 役員室
H18. 1. 27(金)	<ul style="list-style-type: none"> 役員会開催（第三回） 出席者/ 溝辺会長、粕谷副会長、南顧問、久多羅木理事、 南澤理事、中島監事 	千葉工業大学 5号館 7F
H18. 2. 2(木)	<ul style="list-style-type: none"> CITニュースへの記事掲載のお願い 本岡学長、藤井広報部長 出席者/ 南顧問、南澤理事 	千葉工業大学 学長室
	<ul style="list-style-type: none"> 校友タイムスへの記事掲載のお願い 酒井事務局員 出席者/ 南顧問、南澤理事 	千葉工業大学 同窓会事務局
H18. 3. 2(木)	<ul style="list-style-type: none"> CITニュースへの記事掲載打合せ 藤井広報部長、 出席者/ 溝辺会長、南顧問、黒澤理事、町田理事、 南澤理事 	千葉工業大学 入試広報センター
H18. 3. 24(金)	<ul style="list-style-type: none"> 役員会開催（第四回） 出席者/ 溝辺会長、久多羅木理事、町田理事、南澤理事、 中島監事 	千葉工業大学 5号館 7F

○ 平成17年度会計報告書

収 支 決 算 書 (自:平成17年9月16日 ~ 至:平成18年3月31日)

(単位:円)

〈収入の部〉			〈支出の部〉		
収入科目	金額	備考	支出科目	金額	備考
1 会員年会費	231,000		1 会員連絡		
			(1) 印刷費		
			会報 (第1号)	200,000	会報150部、 資料印刷含
2 賛助会員年会費	60,000		(2) 通信費	25,770	
3 雑費			(3) 事務用品	23,855	
(1) 設立御祝金	100,000		(4) その他経費	3,000	
(2) 設立総会懇親会					
余剰金	39,162				
4 その他の収入					
会費預り金	3,000	H18年度会 費前納分			
合計	433,162		合計	252,625	
			次期繰越金	180,537	

貸 借 対 照 表

(平成18年3月31日現在)

(単位:円)

〈資産の部〉		〈正味財産の部〉	
科 目	金 額	科 目	金 額
1. 現金	13,537	1. 基本財産	0
2. 郵便普通預金	167,000	2. 任意積立金	0
3. 振替郵便預金	0	3. 次期繰越金	180,537
資産合計	180,537	正味財産合計	180,537

平成17年度の収支決算書および貸借対照表について監査の結果、適正かつ正確であることを証明いたします。

平成18年 4月 6日

千葉工業大学技術士会

監事 中 島 浩 印

○ 役員・委員 (平成18年12月31日現在)

役職		氏名	卒業学科
最高顧問	千葉工業大学 学長	本岡 誠一	
顧問	機械サイエンス学科 教授	南和 一郎	
顧問	同窓会副会長	芹川 兵衛	
会長		溝邊 哲男	電気36年
副会長		粕谷 太郎	土木43年
理事	受験支援委員長	久多羅木 吉治	土木46年
理事		黒澤 伸好	金属修士47年
理事	事務局長、企画・業務委員長	南澤 守	電気50年
理事	広報委員長	町田 文男	土木50年
監事		中島 浩	電気32年
委員	広報副委員長	山下 幹夫	土木44年
	広報委員	宮前 保美	土木52年
	広報委員	堀田 光	土木53年
	広報委員	児島 雅範	建築54年
	広報委員	松野 勝	土木63年
	受験支援委員	曾根 均	土木46年
	受験支援委員	和気 輝幸	土木46年
	受験支援委員	本間 博史	土木49年

○ 会員の状況 (平成18年12月31日現在)

[正会員]

住所(連絡先)

23	22	16	10	10	6	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	102名
東京23区	千葉	神奈川	北海道	東京都下	埼玉	福島	大阪	佐賀	秋田	宮城	栃木	茨城	山梨	長野	静岡	兵庫	福岡	

卒業学科

59	16	9	5	4	3	3	1	1	1	102名
土木	電気	機械	建築	工業化学	電子	金属	工業経営	精密機械	工業デザイン	

登録部門

58	8	11	1	10	4	3	3	1	1	1	1	102名
建設	建設総合	電気電子	電気電子総合	機械	経営	金属	上下水道	衛生総合	化学	航空宇宙	環境	

[賛助会員]

1	1	1	3社
東京23区	千葉	埼玉	

『広報委員会活動報告』

委員長 町田 文男

広報委員会の主な活動は、千葉工業大学技術士会を在校生や卒業生により多く知っていただき、出来るだけ多くの技術士有資格者の方が技術士会に入会していただけるよう、広報普及活動を行うことにあります。今年は、初年度ということもあり、在校生向けの「ニュースCIT」に技術士制度の啓蒙として、技術士とはどういう資格か？ 技術士試験制度と受験資格の条件は？ 試験日程などの情報、卒業生の合格者の受験体験談などをシリーズで掲載しております（下記を参照）。

また、卒業生向けに本会の活動の一環として、年3回「校友タイムス」にこの技術士制度解説のダイジェスト版を掲載しています。本会の最も大切な活動は会報の発行であります。現在広報委員は会員の山下様、宮前様、児島様、堀田様、松野様に絶大なご協力を頂き、何とか活動しておりますが、全員が建築、土木出身ですので、出来ればその他の多くの部門の技術士の方にご協力、参加をお願いしたいと思っています。また、皆様からの寄稿文、企画提案をお待ちしていますので、事務局のアドレスにご連絡をお願いします。今年の会報の発行が遅くなり会員皆様に大変ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び致します。

「NEWS CIT」に掲載した内容

- シリーズ No.1 (4月15日号)・・・技術士・技術士補の資格に挑戦しよう
 No.2 (5月15日号)・・・技術士制度と技術士の役割
 No.3 (6月15日号)・・・技術士試験の仕組みと合格状況
 No.4 (7月15日号)・・・技術士一次試験の概要
 No.5 (8月20日号)・・・技術士二次試験の概要
 No.6 (9月15日号)・・・技術士一次試験 合格体験記(1)
 No.7 (10月15日号)・・・技術士一次試験 合格体験記(2)
 No.8 (11月15日号)・・・技術士二次試験 合格体験記
 No.9 (12月15日号)・・・継続研鑽(技術士CPD)の概要

「NEWS CIT」に今後掲載を予定している内容

- シリーズ No.10 ……国際的な技術者資格(APECエンジニア)の概要
 No.11 ……JABEE認定と技術士
 No.12 ……技術士制度解説シリーズを終るにあたり

12回で、「技術士制度の解説シリーズ」は終わりになりますが、19年度の技術士試験の試験方法の改定、試験日程、合格者状況、合格者の体験記、技術士に関する動向等は「ニュースCIT」にこれからも必要に応じて掲載していきたいと思っています。

「校友タイムス」に掲載した内容

(1月20日号)・・・千葉工業大学技術士会発足について

シリーズ No.1 (5月10日号)・・・技術士制度解説シリーズを始めるに当って

No.2 (9月1日号)・・・技術士制度と技術士の役割

今後掲載を予定している内容

No.3 (1月号)・・・技術士一次試験の概要

No.4 (4月号)・・・技術士二次試験の概要

No.5 (8月号)・・・技術士二次試験 合格体験記

『受験支援委員会活動報告』

委員長 久多羅木 吉治

千葉工業大学技術士会は多くの方のご支援により、設立総会を平成17年9月に開催し、今日に至っております。

受験支援委員会は、他の委員会とも協調を図りながらその活動を進めておりますが、この委員会の目的はなんと言っても千葉工業大学卒業生に対し、技術系最高の国家資格である技術士二次試験の受験対策に関する活動に尽きると思います。

同時に、千葉工業大学学生および大学院生に対する技術士一次試験の支援についても行っています。現在の委員は4名で構成し、各自仕事の合間にそれぞれ活動を行っています。

いずれも土木工学科卒で一時的な対応はこれまで行ってきましたが、今後のことを考えますとぜひ他学科卒の方にも加わっていただきたいものです。

当面の委員会活動は発足間近ということもあり、校友タイムス、ニュースCITへの「技術士制度解説シリーズ」の記事掲載後の問い合わせに対し、対応を図っていますが今後は会場等を使用しての受験支援の体験談講座なども考えていきたいと思っております。

いずれにしろ、事務局と連携をとりながら、皆様方からの要望、希望等を取り入れながら少しでも母校、会員、OBのために努力してまいりますので、ぜひご支援、ご協力をお願いいたします。

平成18年度事業計画

○ 平成18年度活動計画（活動期間：自平成18年4月1日～平成19年3月31日）

本会活動の目的にそって、会員相互の懇親交流、研鑽ならびに技術士としての識見に基づく時代の要請に立った社会的な活動を今年度も実施する。

特に、千葉工業大学が推進する各施策（産学官連携、JABEE認定プログラム）等については、積極的に支援していく。

今年度の活動計画は、昨年度の活動評価を踏まえ二年目の実績成果を問われることを念頭に、より活性化した活動を展開していくものとし、以下に概要を挙げる。

1. 会報の発行

年二回（6月、12月）

- * 会員に対する唯一の情報提供手段として年二回の発行を継続する
- * 極端な言い回しだが会報発行なくして当会の存続はありえない

2. 講演会・会員交流会の開催

平成19年2月（予定）

- * 本年2月に実施する予定であったができなかった
- * 講演会はテーマと講演者の選択を役員会で決める
- * 懇親会のための日時は特に決めずに定期役員会のある日とし、役員会の後の同窓会会議室で行う
- * 年2回の会報に日時、場所、会費を載せる。参加希望者は事務局に予め連絡させる

3. 会員の技術データの作成

専門家参加の環境作り、人材確保と育成、社会貢献活動への支援準備

- * 会報1号には人材登録案内を送付することになっていたが実現しなかった
- * 会員間の相互支援や産学官連携に伴う大学側の基本資料となるものであり、早急に作成する必要がある

4. 卒業生・学生・院生への支援

広報委員会による技術士制度解説の広報活動

受験支援委員会による技術士、技術士補資格取得支援

5. 大学の産官学融合センターへの協力支援

大学と連携し具体的な活動計画を立案

- * 産官学融合センターとの連携模索

6. 他大学技術士会との連携による情報交換

7. 会員・賛助会員の増員活動

同窓会、企業、個人のネットワークを通じて会員を募る

○ 平成18年度予算書（活動期間；自平成18年4月1日～平成19年3月31日）

科 目	予算金額 (円)	備 考
I. 収入の部		
1) 会費収入	210,000	70人×3,000円=210,000円
2) 賛助会費	90,000	3社×30,000円=90,000円
3) 臨時会費	0	
4) 補助金	0	
5) その他	0	
6) 繰入金	180,537	
当期収入合計 (A)	480,537	
II. 支出の部		
1) 活動費用	150,000	会員通信費
2) 広報費用	190,000	会報発行 (150部、年2回)、 日本技術士会全国大会広告代
3) 講演会・懇親会費	60,000	
4) 管理費	70,000	事務用品、コピー、通信代 他
当期支出合計 (B)	470,000	
当期収支合計 (A-B)	10,537	
次期繰越金 (D)	10,537	

会 員 の 広 場

～ 技術士の視点 ～



「技術移転」(海外実務からの考察)

電気電子部門 中島 浩

プロジェクト・コンサルタントとして海外開発途上国の主として電力・再生可能エネルギー分野の開発ならびに復旧プロジェクトの調査・計画・設計・建設監理・運転などの分野に従事してまいりました。日本のODAのみならず世界銀行やアジア開発銀行融資によるプロジェクトにおいてもコンサルタントに対して現地技術者への技術移転を義務付けております。技術移転の必要性と経験してまいりました電力分野を主とした技術移転の問題点・その対応をご参考までに纏めてみました。

1. 必要性

施設完成後の運転・運営保守業務一切は現地の技術者が実施することになるので、当然かれらへの運転指導と保守業務に関する技術移転が必要となります。

その国の経済・社会開発状況などの環境変化に対応して設備運転モードの変更、増設または新設の必要性が発生することになります。コンサルタントが引き揚げた後には、その国の技術者自身でそれら変化に対応せざるを得ません。この点からは現地技術者への調査・計画・設計に関する技術移転が必要となります。

2. 技術移転の対象者

現地側機関はコンサルタントに対してカウンターパート(*)を任命するのが一般的です。カウンターパートはコンサルタントと常時業務を共に行ない、コンサルタントへの支援ならびにプロジェクトの形成方法や、技術の修得を目的としております。コンサルタントは主にこのカウンターパートに対して技術移転を行ないます。

3. 設備の運転・保守に関する技術移転

同類の既設設備のある国では、その運転経験者を再教育することで新設設備の運転・保守に対応可能です。同類設備の全くない国の場合には、建設・現地運転試験・試運転など全工事期間を通じてカウンターパート及びその施設の運転保守予定者を工事業者の一員として参加させ、工事期間中に施工技術や運転技術を修得させられます。現地の上級技術員候補者に対しては、コンサルタントが工事期間中に設備の各コンポーネント機器の詳細構造・使用目的・機能などを説明し十分に理解させることとなります。コンサルタントは設備の運転・保守マニュアルを作成して現地機関に提供します。

マニュアルには想定事故の詳細な対応策や運転・保守記録用のログシートも含めます。発電所などの運転・管理については通常、別途コンサルタントから1年程度の期間、指導員を現地に派遣し運転・保守の指導を実施します。これまでの経験では、この方法で現地技術員は設備運営を支障なく行なう技術を修得しております。

4. 調査・計画・設計に関する技術移転

電力関係を例にとれば、プロジェクト・コンサルタントは概略次のような手順で業務を実施します。

- (a) プロジェクトの把握：当該国の諸データの収集と分析を行い、当該プロジェクトの必要性和開発規模の検討とともに、その国の現状におけるプロジェクトの位置付けの確認。
- (b) 現状調査：プロジェクト・サイトの現状を調査し、環境問題、開発・復旧計画に伴う問題点や特異点などの調査。セクターの需給バランスなども併せて検討。
- (c) 計画案の作成：将来の需要増を考慮に入れた適正な開発規模を選定し、複数の計画案の作成とそれらの設計と積算。
- (d) 計画案の評価：具体的な計画を代案も含めて作成した後は、所謂フィージビリティ・スタディと云われる、各案に対する評価・妥当性の検討。技術的評価と各種計画案の経済財務分析。
- (e) プロジェクトの形成：評価後に当該プロジェクトの実施による効果、開発規模、事業費、実施工程などを決めて最終計画案を作成。

これら調査・計画・設計に対する技術移転の難易は、相手国に同類の既設設備が相当数あるケース、少数であるが設備を保有しているケース、全く初めての設備となるケースなどにより大きな差違があるのは否めません。

通常、現地業務開始に先立ってコンサルタントは、業務の流れを詳細に記述したインセプション・レポート^(*)2)を相手機関に提出し、説明します。これにより相手機関およびカウンターパートにプロジェクトの調査・計画・設計の流れを概略理解してもらうこととなります。各コンポーネントに対する詳細な技術移転は、コンサルタントの業務進行に伴って実施することとなります。

私自身も含めて調査団員に上記各項目の技術移転に際しては 5W1H^(*)3)を必ずカウンターパートに説明することを求めてまいりました。単なる技術の解説では、参考書に頼れば済むことです。将来彼ら自身でプロジェクトを形成する際に必要となる基本的な考え方、作業の進め方などがより重要であるからと考えるからです。

5. 主な問題と対策

一般に、技術移転に関する業務はコンサルタント契約期間中に限られます。短い期間に如何に現地技術者を育成するかが問題となります。コンサルタントは本来のプロジェクト担当業務を完全に遂行した上に技術移転義務を課せられている訳です。必然的に担当業務完遂にプライオリティを置くこととなります。また、相手機関により任命されたカウンターパートも、その機関において各自の業務を抱えております。常時コンサルタントと共にそのプロジェクトに専任することは殆どの場合無理です。

技術移転に際しての最大の問題は、カウンターパートが、彼ら自身の業務のために頻繁に当該プロジェクトの作業に参加できないことです。場合によっては途中で別の人間に交代することもあります。プロジェクト・コンサルタントは技術移転を第一目的としている訳ではないので、スキップされた事項を遡って説明する時間を作ることは極めて困難です。対応策として、私は技術分野毎のマニュアルを作成してカウンターパートの技術修得の一助としてまいりました。

具体的な計画を代案も含めて作成した後には、それぞれの案に対する評価・妥当性を検討することになりますが、技術的評価は勿論、計画案の経済財務分析なども行なうことになります。相手機関の経済・財務担当者にもこの分析・評価方法を説明しますが、技術者にとっては、内部収益率とか限界コストなど、なじみの少ない分析であり、理解が困難になってきます。しかしながら、やはりプロジェクト評価は、プロジェクトの死命を制する検討ですので技術カウンターパートにも理解させる必要があります。最も困難な技術移転の一つです。

コンサルタントの現地業務中にワークショップ^{(*)4}の開催が要求されており業務実施の複数回の節目に当該プロジェクトの調査・計画・設計・結論など、それぞれの時点までの業務遂行状況とその成果を現地の諸機関、現地駐在各国大使館員や援助機関の担当者を集めて報告し、意見聴取、質疑応答を行ないます。私はこのワークショップにおける報告を相手機関の承諾を得てカウンターパートを主として開催することにしてまいりました。コンサルタントと協同作業をしてきたカウンターパートは否応なしに担当業務の発表原稿を作成することになり、担当業務を理解する努力をせざるを得ない上に発表力の訓練にもなります。コンサルタント担当者はバックアップすることになりますが、カウンターパートは真剣に対応せざるを得ません。

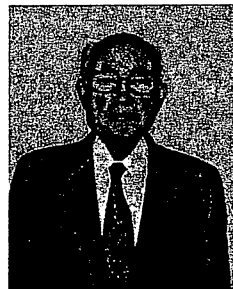
計画・設計の技術はコンサルタントの短い現地滞在期間内に十分に移転することは極めて困難です。日本支援プロジェクトにはカウンターパートを日本に呼んで訓練する制度もありますが、多忙を極めるコンサルタントにとって問題をはらんでおります。短期間の制度であるが故に勢い国内の設備の見学が主となり、本来の技術指導は難しいのではないかと危惧いたします。また、比較的長期間の海外研修生の受け入れ制度もありますが種々の問題を含んでいるようです。自らの費用で相手国の技術者を招き長期に亘り真摯に技術指導を行なっている外国のコンサルタントもあります。言語問題など障壁もありますが私たちも参考にする必要があると思います。

外国人に対する技術移転の難しさを痛感するとともに、学校教育のカリキュラムも参考として適切な方策を見出す努力を続ける必要があると考えております。

-
- (*)1 専門分野ごとの担当コンサルタントに対して、その現地業務の補助作業を兼ねて技術修得のために任命された現地機関の担当者
 - (*)2 コンサルタント業務の目的、内容、業務実施方針・方法、作業計画などを纏めた報告書
 - (*)3 When, Why, What, Where, Who, How
 - (*)4 それまでに実施してきた業務の内容・実績および今後の予定に関する事項の報告会

～ リレーション あの人のひと ～

鈴木 貞良（すずき さだよし）さん （建設部門）



私は昭和32年に機械工学科を卒業しました。日本工営（株）に入社し、平成11年まで40年以上の大部分を国内、海外のプロジェクトにおいて、技術コンサルタントの仕事を行ってきました。現在では、コンサルタントという言葉は一般化して、色々なコンサルタントが氾濫しておりますが、当時はなじみがうすく、技術コンサルタントとは技術ブローカー程度にししか認識されない時代でした。時代の移り変わりを感じます。

私の携わったのは内外プロジェクトでの、施工機械設備、鋼構造、揚水設備、廃棄物焼却施設設計、地下調節池の運転管理設備などの調査、計画、設計、施工管理などを含むコンサルタント業務でした。その中で、最近都市の洪水防止対策の実例として、東京都の地下調節池の洪水防止効果が取り上げられ、時々テレビで放映されております。この地下調節池プロジェクトには、計画の始めから施工管理まで技術コンサルタントとして参加し、調節池の運転維持管理設備を担当しました。それらの諸設備がよく機能を果たしていることをテレビ放映で確認して安心しておる次第です。海外では、変わった体験もありました。フィリピンの工業団地の調査業務でマニラに滞在中、クーデターが発生して外出禁止になり、調査資料の収集ができず、帰国の期日が迫ってきて、いらいらしながら、ホテルの屋上から政府軍機による反乱軍へのロケット弾攻撃を観戦していたこともありました。

平成11年から、柳津測量設計（株）に技術アドバイザーとして在籍しております（平成18年中に退社の予定）。唯一の趣味は麻雀です。下手の横好きで、高い授業料を納めた割には上達しません。私も70代の後半になり、病院行きの頻度も多くなっている昨今ですが、可能な限り今後も頑張るつもりでおります。

⇒ 次は、井出 公平さんをお願いします。

町田 文男（まちだ ふみお）さん （建設部門）



私は昭和50年に土木工学を卒業しました。研究室は体育会系の学生の多く集まる土質研究室でした。私も剣道部に所属していました。当時は我々みたいな肉体を使うことしか脳のないものは、毎日実験、実験で、その後、他愛もない話でよく酒を飲んだものです。私は特に現場施工に興味があったため、白石基礎工事（現在の（株）白石）に就職しまして、地下鉄工事、橋梁基礎工事、高速道路の土工事、トンネル工事、宅造工事と色々な工事を経験しました。毎日見るものすべてが勉強で、よく新しいことをノートに書き留めた事を覚えています。特に私は群馬、広島、青森、長崎と地方の現場が多かったためその場所の名所旧跡、美味しい特産物は最高の楽しみでした。そんな現場の最中、長崎の高速道路の現場で技術士という資格の事を知りました。地滑り対策の調査、対策工事の検討を一緒にしていたあるコンサルタントの技術者が当社の現場の事をテーマにして、技術士に合格したのです。そのことが刺激になり転勤後、平成2年に建設部門（施工計画）で取得しました。現在は現場を離れ、土木本部で勤務しております。この技術士会を通じて、多くの先輩と知り合うことができ、とても有意義と感じております。

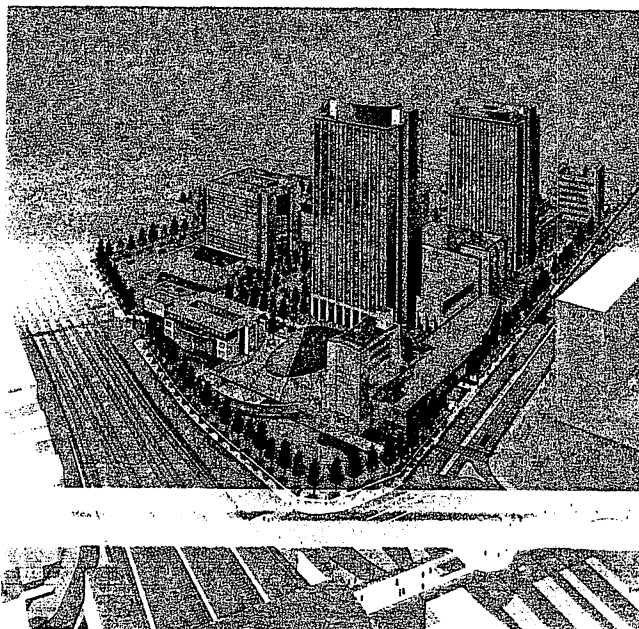
⇒ 次は、岡田 真由子さんをお願いします。

事務局 だ よ り

～ 千葉工業大学 トピックス ～

津田沼・芝園キャンパス再開発始動

千葉工業大学では、「魅力ある大学づくり」を掲げて、各制度の見直しや学生の教育研究および学生生活での満足度を高めようと、いろいろな施策が試みられているが、このほどその一環として、津田沼・芝園両キャンパスの新校舎構想が発表された。津田沼キャンパスでは第一期工事で新1号棟（仮称＝2008年9月供用開始予定）が、第二期工事で新2号棟（仮称＝2010年度完成予定）が建設される。高層建築のツインタワーの建設後、さらに再開発計画が検討される予定である



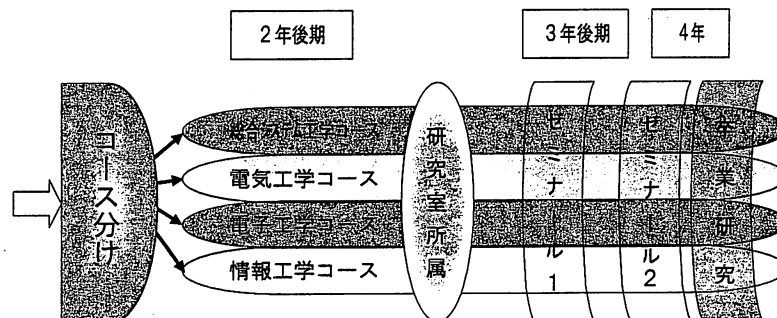
産官学連携フォーラム開催

千葉工業大学 産官学融合センターと技術・情報振興会が主催する産官学連携フォーラムが、12月7日に開催された。平成18年度の第1回目となる今回は産業界、地域社会のニーズに応えるため、積極的に交流を深める場として、オープンラボ（研究紹介）と研究室見学があり、一般参加者を含め多数が参加した。研究紹介では時節にあった興味をひくものばかりで、有意義な一日となった。研究紹介での発表内容は以下のとおりである。

- 燃料電池
機械サイエンス学科 教授 江尻 英治
- 放電プラズマの光源、オゾン発生器等への応用
電気電子情報工学科 教授 伊藤 晴雄
- 生体材料用ガラス繊維の創製と医療用具への応用展開
生命環境科学科 教授 小林 雅博
- 建設汚泥リサイクル技術・火山灰質粘性土の緑化資材としての有効利用技術
建設都市環境学科 教授 渡邊 勉
- いす・シート・ベット・住設機器など工業製品における人間工学の応用技術
デザイン学科 助教授 上野 義雪

電気電子情報工学科 J A B E E 申請に向け準備開始

電気電子情報工学科では、平成18年度から教育プログラムを大幅に改編し、コースごとに順次 J A B E E プログラムへの申請を目指して教育改革を行っている。その第一ステップとして、J A B E E へ申請する教育プログラムを提供する「総合システム工学コース」が3年後の申請を目指しスタートした。



認定コース修了者は修習技術者となり、法的に登録すれば技術士補の資格が与えられる。その後4年間の実務経験を経て技術士二次試験を受ける資格が与えられる。

平成19年度以降は他学科についても J A B E E 申請に向け準備を開始するという。

津田沼図書館に技術士コーナー設置

津田沼図書館（5号館）4階に平成18年度より千葉工大生の人材育成の一貫として技術士の受験に関する書籍の特設コーナーが設置された。

蔵書数は約100冊だが、今後も最新の書籍を集積する予定である。

〇Bも利用者カードを発行してくれるので免許証や保険証を準備し、1階受け付けで問い合わせてもらおうと1時間程で発行してもらえる。機会があれば覗いてほしい。

会館時間は以下となっているが休館日もあるので事前に確認が必要である。

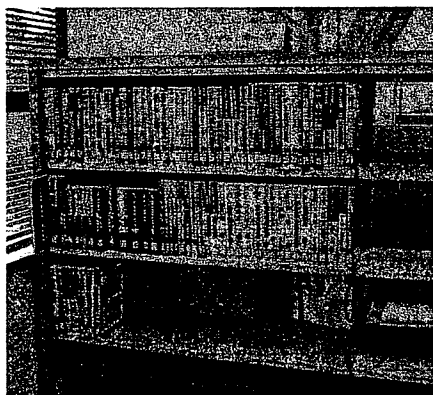
開館時間 平日 9:00～21:00

土曜日 9:00～17:00

貸出冊数 3冊 2週間

TEL 047-478-0239

ホームページ URL=<http://opac.lib.it-chiba.ac.jp/>



～ 会員の動静 ～

新規入会者 (H17. 10. 1～H18. 12. 31)

〔正会員〕

藤永 弥 (ふじながわたる)	建設	土木 61 年卒	東亜道路工業(株)
佐藤 修 (さとうおさむ)	建設	土木 57 年卒	日本ライナー(株)
横尾 徹 (よこおとおる)	建設	土木 57 年卒	(株)森本組
金子 英男 (かねこひでお)	電気電子	電気 47 年卒	(株)エスエナジーサービス
本多 雅之 (ほんだまさゆき)	建設	土木 53 年卒	飛島建設(株)
本宮 進一郎 (もとみや しんいちろう)	建設	土木 H3 年卒	成田国際空港(株)
山下 幹夫 (やましたみきお)	建設	土木 44 年卒	開発コンサルタント(株)
三森 晶則 (みもりあきのり)	建設・総合監理	土木 52 年卒	開発コンサルタント(株)
松野 勝 (まつのまさる)	建設	土木 63 年卒	開発コンサルタント(株)
西田 直美 (にしだなおみ)	建設	土木 H3 年卒	(株)白石
井出 丈志 (いでたけし)	建設	土木 H7 年卒	(株)白石
岡田 真由子 (おかだ まゆこ)	上下水道	工業化学 (工研) H15 年卒	アムコン(株)

〔賛助会員〕

㈱新生エンジニアリング	代表者 相馬 寿昭	(土木 48 年卒)
佐藤鉄工(株)	代表者 佐藤 邦夫	
オリエント総業(株)	代表者 折目 哲哉	(工業化学 41 年卒)

千葉工業大学技術士会 個人情報保護ポリシー

千葉工業大学技術士会（以降、本会という）は、業務上使用する会員原簿などの個人情報情報は「個人情報の保護に関する法律」に基づき厳正に管理維持します。

個人情報の利用目的は、本会の活動に限定するとともに、管理に当っては漏えい等の防止のための安全管理措置ならびに本人からの求めによる個人情報の開示・訂正・利用停止を行うものとします。

個人情報を本会の活動以外の利用目的で使用する場合は、本人の承諾を得た上で会長の承認を受けることにします。

本会の役員、会員は個人情報保護の重要性を認識し、個人情報保護のための取り組みを継続的に実施し、改善を図ります。

～ 事務局からのお知らせ ～

人材バンク登録のお知らせとお願い

前回は人材バンク登録（仮称）の計画についてお知らせしましたが、何とか今年度中には構想をまとめ会員の皆様に素案をつくり案内をお送りしたいと思っております。

人材バンクへの登録内容は、技術士会がこれから活動を本格化していく上で、会員の皆様にお手伝いをしていただける以下内容に絞り登録することを考えています。

- 技術士一次試験、二次試験の学生、院生、卒業生に対する受験指導支援への参加意思と参加可能時間
- 大学の産官学連携の取組みに対する支援参加意思と参加可能時間
- 会員相互、あるいは技術士会として技術情報提供サービスを行うにあたり、参加意思と参加可能時間 など

会費納入のお願い

私たちの技術士会の会員数は現在100名余りと小所帯です。まだまだ潜在して活躍されている卒業生はいるものと思っております。会員の皆様のネットワークによるロコミを主力にした会員増強作戦を従来どおり展開していきますが、当面の活動には皆様方の会費に頼るしか手立てがありません。何卒、母校のため、技術士会のため、活動に支障がきたさないよう会費納入についてご理解をお願いします。

賛助会員加入へのご協力のお願い

賛助会員の会費は一口1万円です。会員の企業、団体または個人で趣旨に賛同いただけるようでしたら、賛助会員の加入についてのご協力をお願いします。

会報投稿へのお願い

次の会報は6月に発行の予定です。事務局では会報の内容充実を図っていきますが、それには会員からの投稿による情報提供が欠かせません。ご協力よろしくをお願いします。

千葉工業大学技術士会 会員募集

会員の勧誘に個人情報保護の障壁もあり四苦八苦しています。今まで大学の『NEWS C I T』や同窓会の『校友タイムズ』を通じ技術士制度解説シリーズを掲載し技術士会の活動を広報しておりますが、新入会員は頭打ちの状況です。唯一、会員の広いネットワークに頼るしか手立てがありません。お知り合いに技術士、技術士補の方がおりましたら、事務局までご一報ください。ご協力よろしくをお願いします。



現在の正門

千葉工業大学技術士会 会報第2号 平成19年1月25日発行

千葉工業大学技術士会 広報委員会

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号 千葉工業大学内

事務局 TEL: 090-8815-2504 E-Mail: pe39962minami@d3.dion.ne.jp (南澤)